



# 研究影響力の最大化のための二つの方策

杉田茂樹 <[ssugita@office.otaru-uc.ac.jp](mailto:ssugita@office.otaru-uc.ac.jp)>

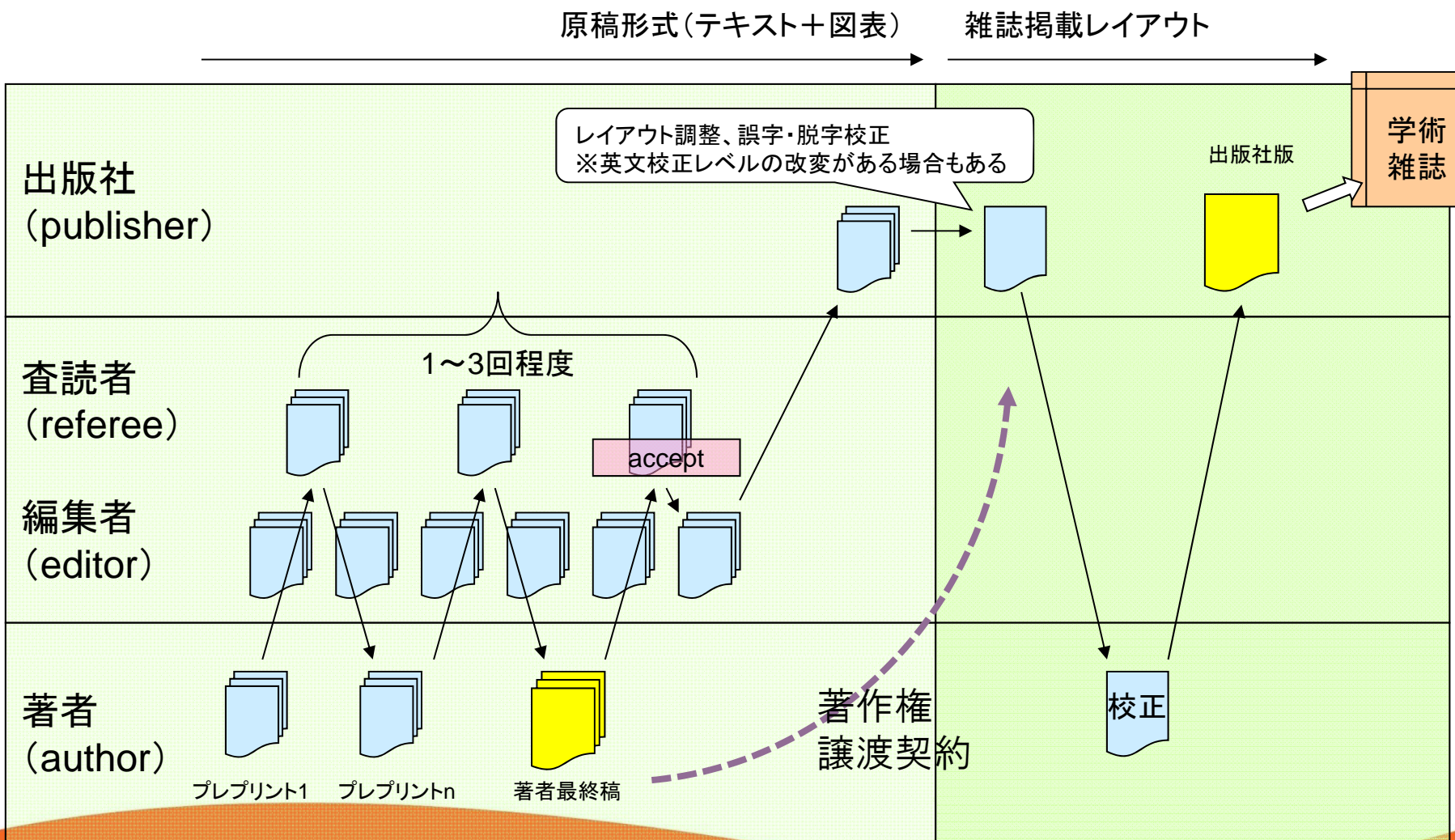
(デジタルリポジトリ連合・小樽商科大学)

平成23年10月31日

# 学術雑誌

- 出版数：25,000タイトル
- 掲載論文：150万報/年
- 執筆者：100万人
- 読者：1000～1500万人
- 読者の所属機関：10,000機関以上
- ダウンロード：15億回/年
  - Mabe MA (2009): Scholarly Publishing. European Review 17(1): 3-22

# 執筆論文が雑誌に掲載されるまで

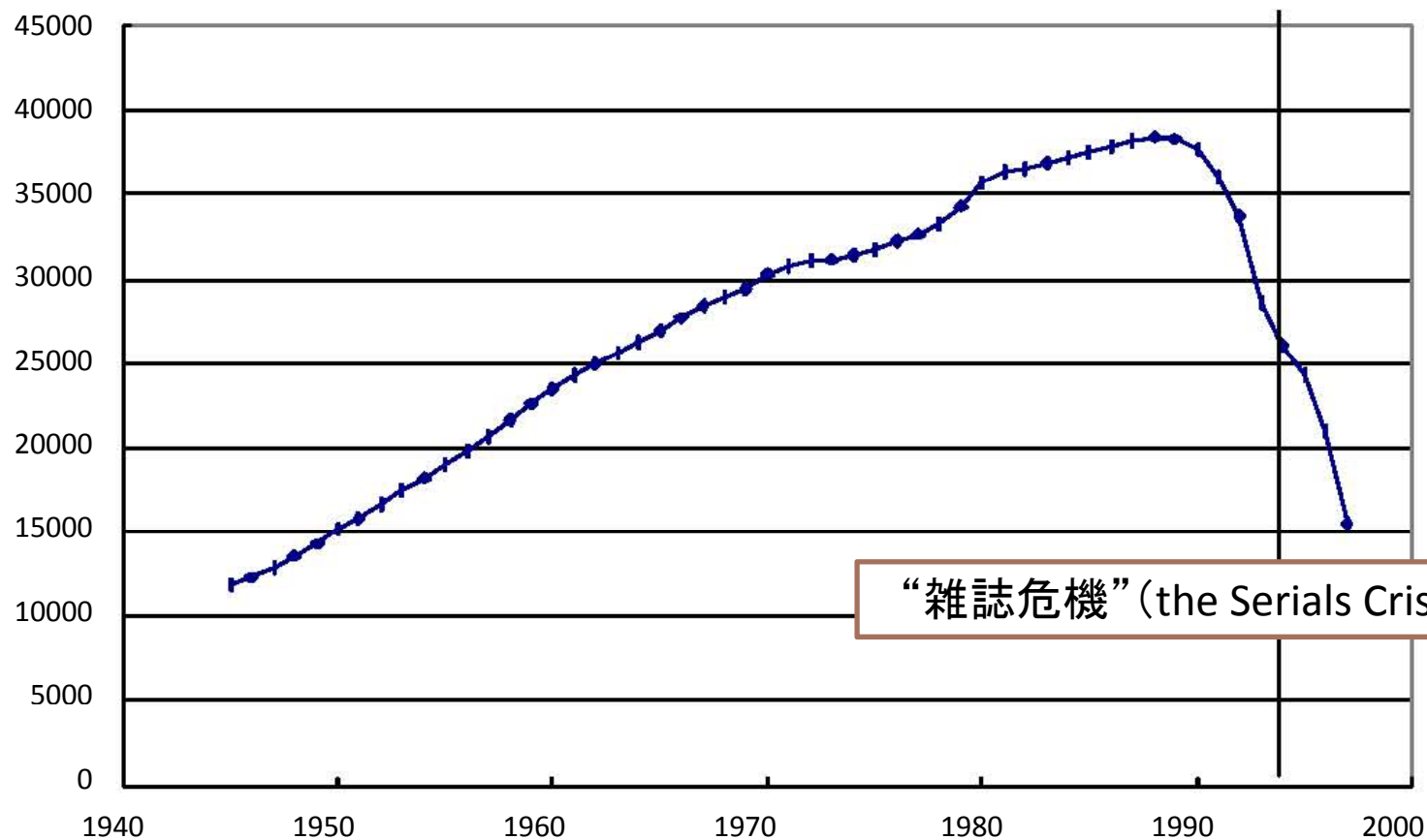


# 学術雑誌の歴史

- 誕生(1665年)
  - 以来300年間にわたり、学術情報流通の要
- 20世紀後半
  - 科学情報流通の爆発的増加
  - 商業出版社の進出、企業買収による寡占
  - 価格高騰(⇔購読中止、の悪循環)
- 1990年代～ インターネット利用の普及
  - 「電子ジャーナル」の成立、薄利多売→巨大取引
  - オープンアクセス思潮の興隆

# 購読中止⇔さらなる価格上昇

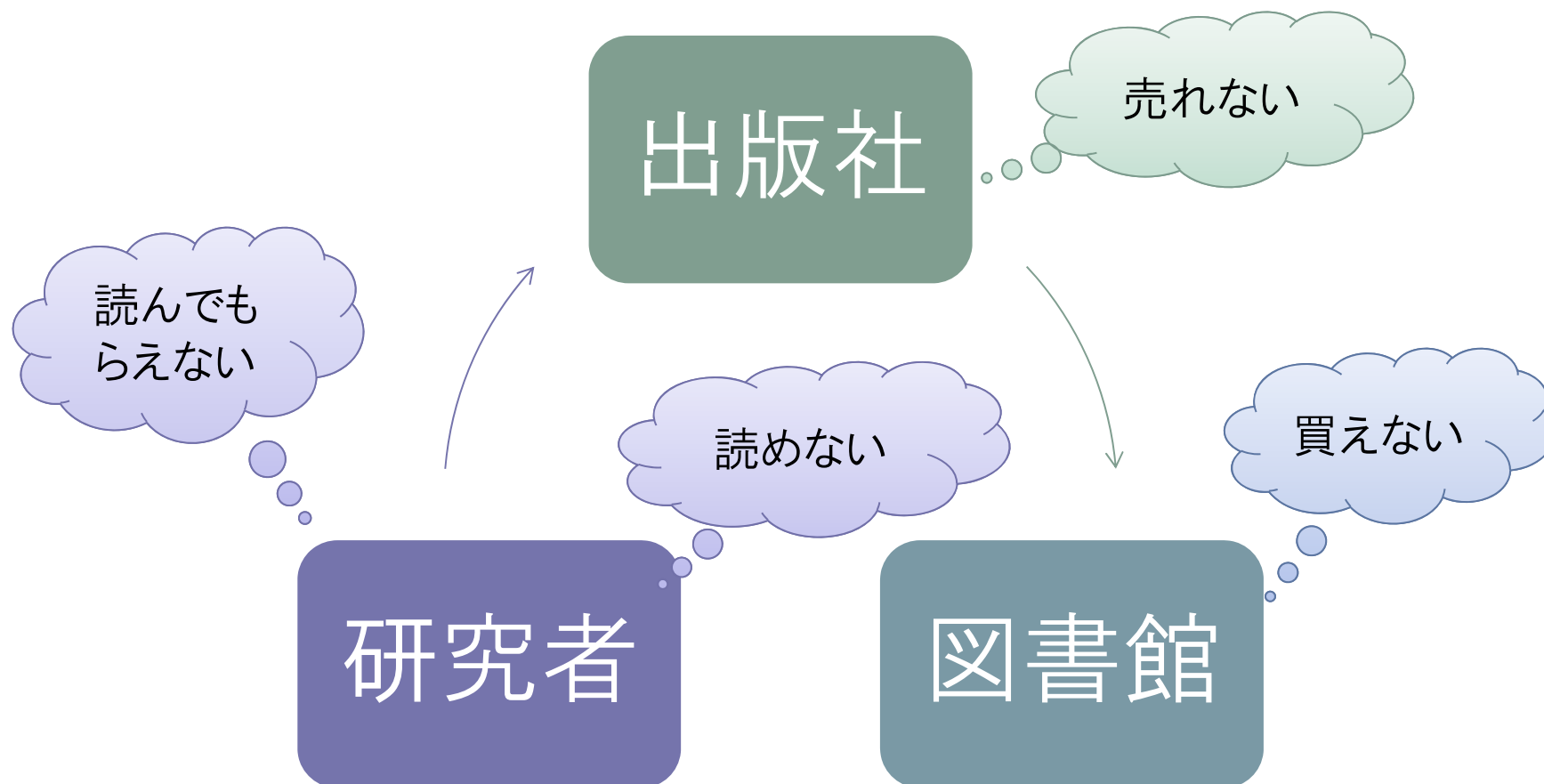
タイトル数



“雑誌危機” (the Serials Crisis)

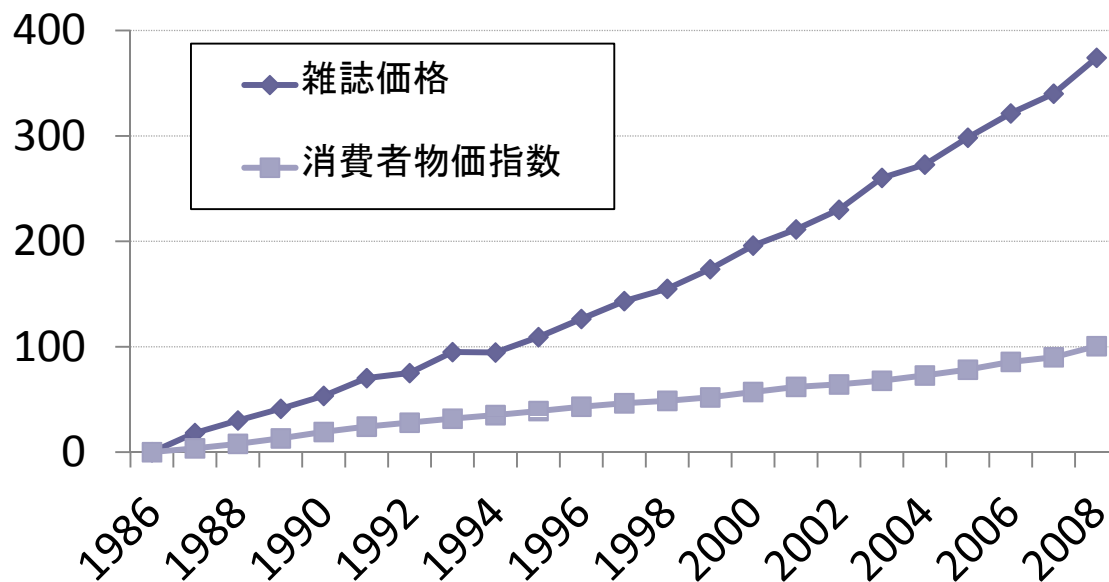
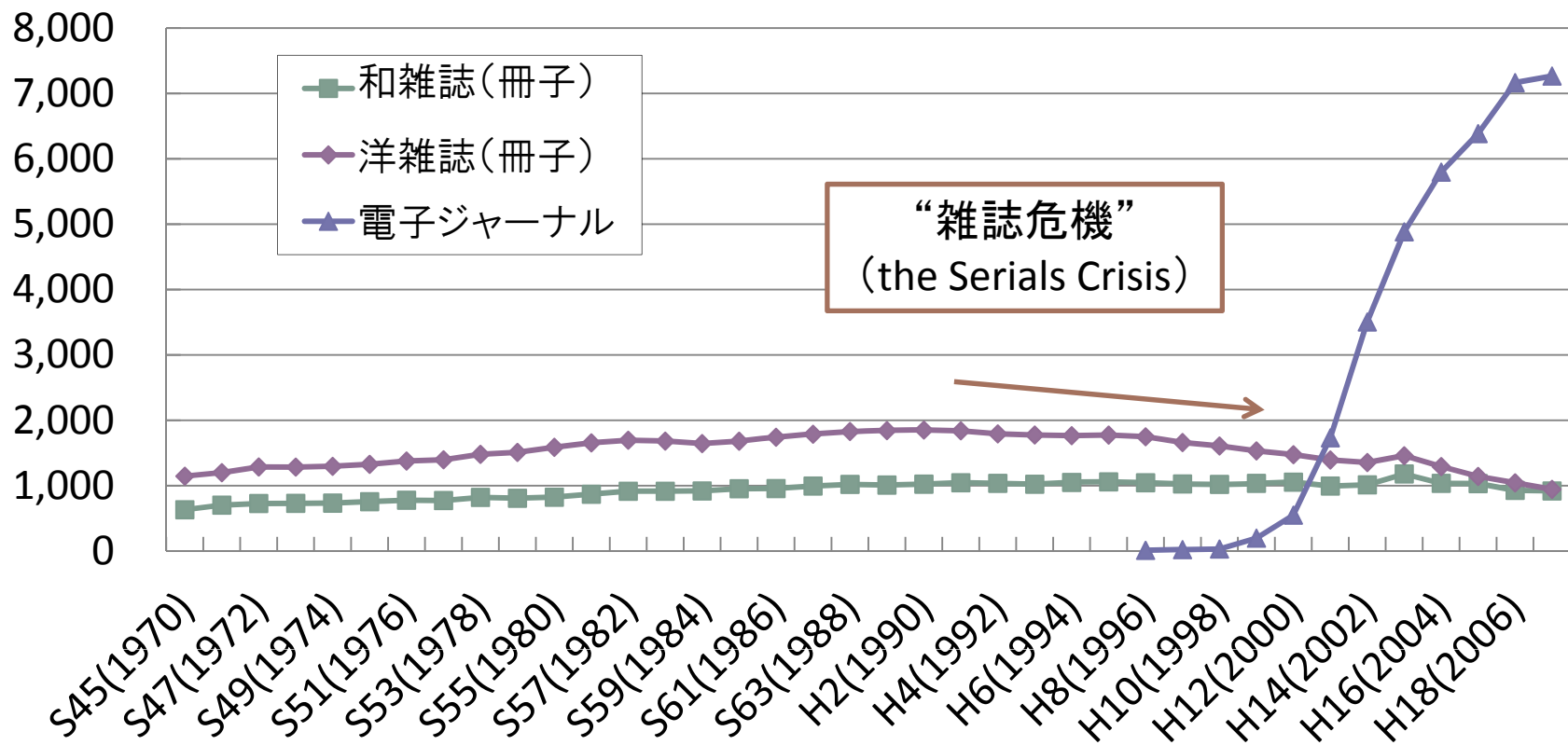
学術雑誌総合目録データベースに基づく日本の図書館の外国雑誌受入れタイトル数  
「電子的学術定期出版物の収集体制の確立に関する提言」, 日本学術会議, 2000

# 学術雑誌の流通不全



# 学術雑誌の歴史

- 誕生(1665年)
  - 以来300年間にわたり、学術情報流通の要
- 20世紀後半
  - 科学情報流通の爆発的増加
  - 商業出版社の進出、企業買収による寡占
  - 価格高騰(⇔購読中止、の悪循環)
- 1990年代～ インターネット利用の普及
  - 「電子ジャーナル」の成立、薄利多売→巨大取引
  - オープンアクセス思潮の興隆







YOU WRITE THE PAPERS,  
YOU REVIEW THE PAPERS...

**WHY SHOULD YOU PAY TO READ THEM ?**

# オープンアクセス

- 学術は人類の共有資産
- 自著論文を万人が読める(=研究影響力の最大化)ようにするために
- Budapest Open Access Initiative (2002)
  - BOAI-1: セルフアーカイビング
  - BOAI-2: オープンアクセスジャーナル
- 『自然・人文科学における知識へのオープンアクセスに関するベルリン宣言』(2003)  
→現在までに297の大学・研究機関が署名

# BOAI-1: セルフアーカイビング

- 研究者自ら、執筆した論文をインターネット公開し、無料で利用可能とすること
- “Institutional Repository”（機関の保存庫）
  - 執筆論文の公開のために、大学が構成員にインフラを提供
  - 国内180以上の大学・研究機関が運営
- 留意点：著作権（通常、出版者に譲渡済み）

# 小樽商科大学学術成果コレクション 「Barrel」

インターネットで誰でも手軽に論文が読めるのは筆者・読者双方にとってありがたいことだと思います。来年から私を指導教員として、**中国の留学生の方から研究生の申し込みがありました**が、Barrelで私の論文を読んで申し込みをしてきた**ことです**。Barrelがなければこういうことも起こらなかったかもしれません。人と人をつなげるという意味でもよいシステムだと思います。



# 大学としてのオープンアクセス方針

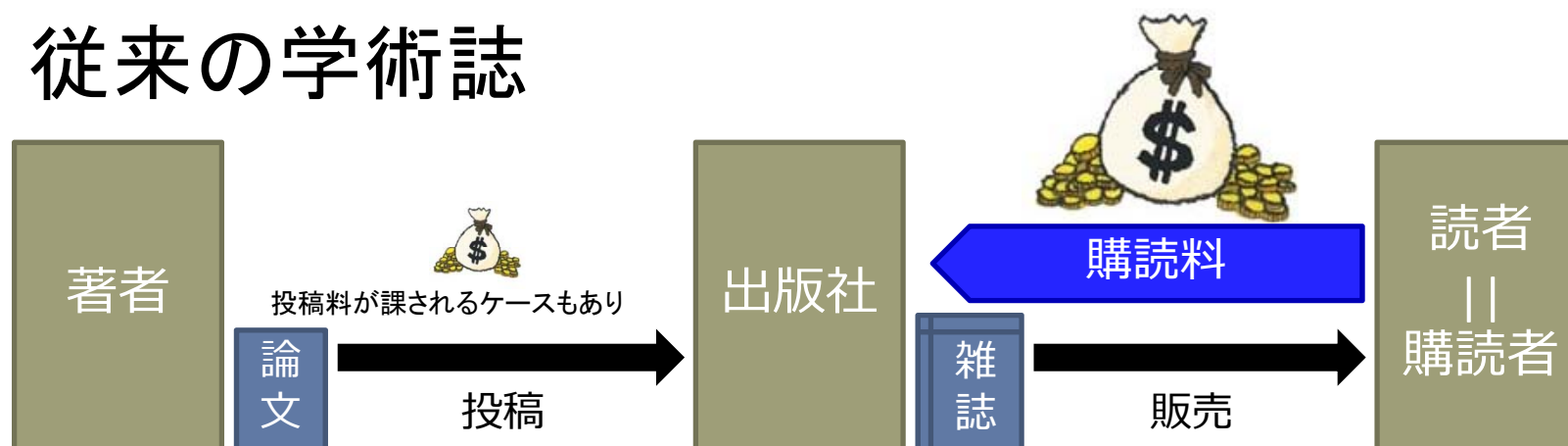
- ハーバード大学文理学部教授会
  - 「オープンアクセス方針」を採択(2008年)
    - 「文理学部教員は、大学執行部に、文理学部教員の執筆論文について著作権を行使する権限(機関リポジトリでの公開)を与える」
  - 次いで法学部、政治学部、教育学部等でも同一方針採択
- ほかに、全学方針130機関、学部方針33機関

## BOAI-2: オープンアクセスジャーナル

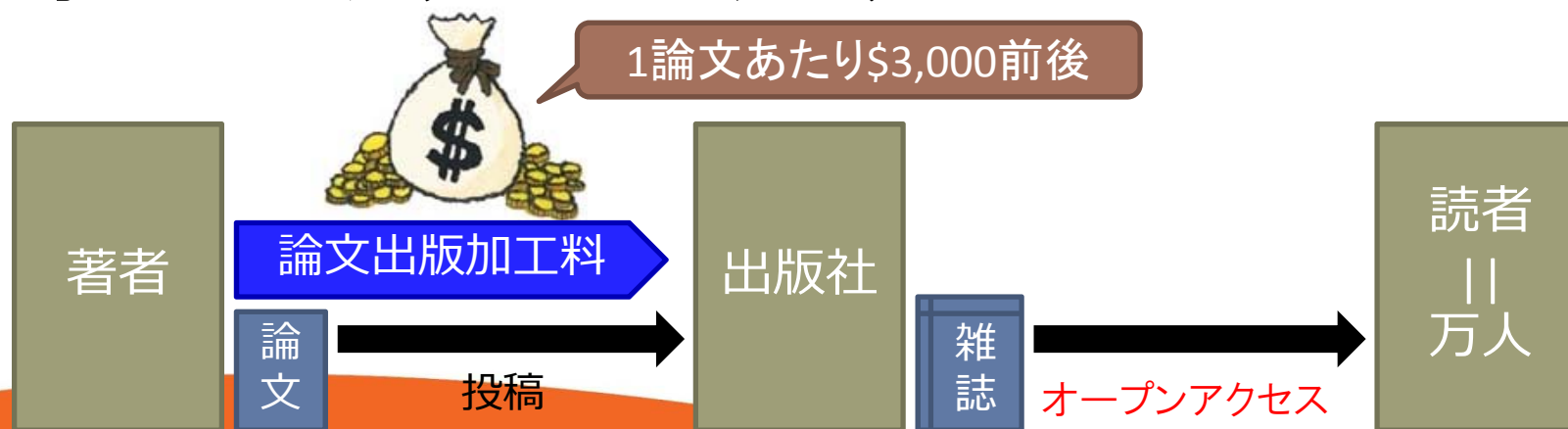
- 無料で閲覧できる電子ジャーナルの創刊や、そうしたジャーナルへの論文投稿
- 7,227種 (Directory of Open Access Journalsによる。平23.10現在)
- 著者が出版コストを負担
  - 掲載決定時にオプション料金を支払うと自分のその論文だけを無料公開してくれる有料誌 (“ハイブリッドジャーナル”) もあり

# 著者が出版コストを負担

- 従来 of 学術誌



- オープンアクセスジャーナル



# PUBLIC LIBRARY of SCIENCE

- 自然科学系ジャーナル7誌を電子出版
- 論文出版加工料: 1,350～2,900ドル
- 他社優良誌にひけをとらない品質
  - PLoS Biology (2003-) : IF 12.916
- PLoS ONE (“Open Access Mega Journal”)
  - 軽度の査読により、科学的妥当性のみを審査
  - トップ誌リジェクト論文の受け皿としても機能
  - PLoS ONE (2006-) : IF 4.351



# PLoS ONE – 統計

年	年間投稿数	年間刊行数	PubMed内シェア
2007	2,497	1,231	0.16%
2008	4,401	2,723	0.34%
2009	6,734	4,310	0.52%
2010	13,567	6,784	0.7%
2011	>22,000*	>12,000*	~1.5%*

*\*Projections for 2011*

- By publication volume, PLoS ONE was the largest journal in the world in 2010, and will be the largest by a factor of 2-3 in 2011

[www.plos.org](http://www.plos.org)

# まとめ

- 学術雑誌の発展と「雑誌危機」
- 電子ジャーナル化＋一括契約により、「読める雑誌の減少」問題は劇的に好転
- しかし依然としてじりじり上がっていく購読経費
- オープンアクセス思潮の興隆
- グリーンOA／ゴールドOA、各々の進展